



## 名画の扉

2021年度新収蔵作品から

なお石原さんの新作の個展は、16日から24日まで有鄰館煉瓦蔵で開催されます。

(田中)

## 文化・芸術

### 「S型の風景」

石原彰二（1950年）

2007～08年 油彩、キャンバス  
100×100cm  
(2021年度作者寄贈作品)

前回わたしは、石原彰二さんの作品には、「ゆったりとした独特の時間」が流れていると書きました。これは、石原さんの「日常」から生まれるのでしょうか。

マドリード郊外の石原さんのお住まい。この作品では、自宅の庭の塀の向こうに広がる風景が描かれています。制作当時をふりかえって石原さんは、「日常の見慣れたものも絵に出来る」と考えるようになり」「日常の対象を観察してみよう」と思うようになったと書いています。

気負いなく自然体で過ごす生活の中で描かれた作品は、おのずと作者の日常を反映しているのでしよう。もっとも「スローライフ」という言葉のはやりとは無縁に、「日常」の豊かさが作品から感じられます。また、そうした「日常」にきちんと向きあっている画家の誠実さが何よりも作品から伝わってきます。